

学校運営計画

評価(3月)

教育指導基本方針

- ① 校訓「自主 友愛 練磨」を体現し、社会を生き抜く力を修得させる。
- ② 竟成館五箇条教育を推進し、五箇条に沿う人間力を育成する。
- ③ 職員の協働性と教育活動への意欲を高め、学校の課題解決を図るために、働き方改革を推進する。
- ④ 創立70周年に向けて、地域に根ざした伝統校としての足場を固め、生徒の自尊心と愛校心を育成する。

昨年度の成果と課題

年度重点目標

具体的目標

<p>【成果】</p> <p>(1) クロムブック40台が整備され、ICT機器が充実し、各教室に保管することで使いやすい環境が整いつつある。今後もより良い環境づくりと有効活用に努めていく。</p> <p>(2) 習熟度別・少人数制授業や生徒の主体性を重視した学習指導の徹底により、オンライン学習や自主学習時間が伸びが見られた。</p> <p>(3) 「SDGs万華鏡“KAGUYA”プロジェクト」「JR古賀駅西口エリア活性化プロジェクト」「ワンヘルス動物愛護活動」等の地域連携活動により地域に貢献する生徒が増加した。</p> <p>(4) ウィズコロナ・ポストコロナに対応した学校行事や特別活動をおして生徒の主体性・協働性の伸長と自己有用感と愛校心の高揚がみられた。</p> <p>(5) 学校の魅力化推進、広報活動の充実、入学者選抜改革により、第一志望の志願者が増加した。教育活動の充実により愛校心と自尊心を高めていきたい。</p> <p>【課題】</p> <p>(1) 観点別評価については、実効性のある活用・運用方法を確立し、校務支援システムの有効活用に取り組んでいかなければならない。</p> <p>(2) 職員研修をとおして、生徒理解、生徒状況の共有を進め、多様な生徒・保護者のニーズに応える資質と能力の向上に努める。</p> <p>(3) 様々な危機管理を想定した職員の資質・能力の向上に努め、組織的対応を効率化する働き方改革を推進する。</p> <p>(4) 時代の要請に適う進路指導の在り方を構築するために、総合的な探究の時間の充実やICTの活用等により、生徒の自己実現を支援するシステムづくりを推進する。</p> <p>(5) 部活動の活性化の観点から、地域との連携や交流や学校ホームページ・SNSによる配信を増やし、学校の魅力発信力の向上を図る。</p>	<p>(1) 安全に安心して学ぶことができる質の高い学習環境づくりを実現する。</p> <p>(2) 自律的学習者の育成を念頭においた授業改善と教育活動を展開する。</p> <p>(3) 地域に学び、地域に貢献し、将来地域の担い手となる生徒を獲得し、育成する。</p> <p>(4) 学校全体で生徒の自己実現を支え、3年間を見通した進路指導体系を構築する。</p> <p>(5) 生徒自身に自らの在り方・生き方を考えさせる生徒指導を推進する。</p> <p>(6) 行事等の見直しによって、職員の働き方改革を推進する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の多様性に配慮しながら、職員全体で組織的に一人ひとりの生徒を見守り、個に寄り添った指導を行うために、複数担任制の充実・効率化を図る。 ・新たな時代に即した道德教育・人権教育を推進し、「ほめて伸ばす」教育活動を展開する。 ・校内LAN(Wi-Fi)およびICT機器(iPad・2024年7月・電子黒板・プロジェクタ・スクリーン)等の設備を十分に活用して、生徒の興味関心を高める魅力ある授業や学校行事を作り上げる。 ・いじめ不登校対策委員会や拡大学年会の開催を通して、学校生活や人間関係等に悩みや不安を抱える生徒の把握に努めるとともに、全職員の共通理解・共通認識のもとで指導にあたる。 ・普通科4クラス・総合ビジネス科1クラス体制における教育課程の修正と改善をとおして新学習指導要領に基づいた授業改善(主体的・対話的で深い学び)を進める。 ・授業アンケート、学習時間調査等を通して生徒の実態把握と指導の改善を積極的に行う。 ・観点別評価の在り方を検証し改善することにより、多面的な学習評価を行うとともに、よりよい評価方法の研究を行う。 ・志願倍率の維持・向上を図るために、入学者選抜システムの抜本的な見直しを行い、組合内中学校および塾との連携を強化する。 ・新聞・テレビ等のメディア、学校HPやSNSツールを活用して、本校の魅力を広く発信する戦略的な広報活動を展開する。 ・古賀市・福津市・新宮町との連携、および地域の小中学校との連携を通して、生徒に地域の課題に目を向けさせ、全校生徒に在学中に少なくとも1回以上の地域ボランティアへの参加を促し、探究的・自律的な学習の充実を図る。 ・進路指導の充実を図るため、3年間を見通した進路指導体系を構築する。 ・学校全体で生徒一人ひとりの希望進路実現を支援する「相談・指導体制の充実」を図る。 ・国立大学の情報収集および小論文を含めた入試問題研究を積極的に推進し、生徒に自らの可能性に気づかせ、進路実現に向かわせる気運を高める。 ・スタディサプリやClassi・Google Classroomを活用し、個別最適な学びや自主学習の推進をとおして上級学校への進学を促進する。 ・総合的な探究の時間やボランティア活動等をおして、協働性、表現力、行動力を高め、総合型選抜や学校推薦型選抜に対応する実践的な学力を高める。 ・生徒が主体となり企画・運営を行う学校行事(鶴翔祭・体育祭)を実施する。 ・生徒自身が「望ましい服装や行動」等の規範を自律的に考えて、自ら変えていこうとする行動や態度を育成する。 ・創立70周年に向けて、生徒の愛校心と自尊心を育成するために、「竟成館五箇条」に沿った取組を、生徒会に自ら企画立案させ、学校全体で取り組んでいく。 ・部課制を十分に機能させるため、4部制とし、部内の連携の効率化を図り、校務分掌における業務負担の偏りを軽減するとともに、協働的で効率的な組織運営を行う。 ・業務の精選・見直しを積極的に推進し、業務の無駄を省き、必要な業務に重点的に取り組むことができるようにする。 ・「校務支援システム」の効果的な運用と利活用を通して、生徒情報の統合を行い、出欠管理・成績管理・進路に係る諸帳簿の作成等の効率化を図り、職員の業務負担を軽減する。
---	---	--

部	課	具体的目標	具体的方策	評価	本年度の成果と次年度に向けての課題
教務	学務	質の高い学習環境づくり	校内LANやICT機器等の設備を十分に活用し、生徒の興味関心を高める魅力ある授業を作る。指導と評価の一体化を図る。		
		自律的・意欲的に学ぶ生徒の育成	新学習指導要領に基づいた授業改善を進める。観点別評価を実施し、多面的な学習評価を行う。		
	研修	学習指導力の向上を図る。	授業公開週間を実施する。授業研究会を実施する。		
		高いレベルの教育の実践を模索する。	お互いの教育実践について、情報交換・情報共有の場を設定する。社会参画の力を育む教育活動の充実を図る。		
	情報	教育の情報化推進	ICT活用を促進し、職員のスキルアップを目指す。生徒の一人一台端末の設置に向け、その利用方法を研究して教育の情報化を図る。		
		ネットワークやアカウント等の管理	関係分掌と連携し、ネットワークやアカウント等を適切に管理する。業務効率向上に繋がるソフトを管理・整備し、職員の負担軽減に努める。		
生徒	生徒支援	生徒自身が望ましい服装や行動等の規範を自律的に考えて自ら変えていこうとする行動や態度の育成	周囲への思いやりや寛容さの重要性・公共マナーについて、機会をとおして指導する。委員会活動を活性化させ、定期的に話し合いを設定する。		
		生徒の愛校心と自尊心の育成	何事にも積極的に参加し、失敗を恐れず挑戦する機会を設定する。部活動を活性化させる。		
	保健安全	心身の健康や安全に対する意識向上 美化意識の高揚	健康診断・身体測定結果の活用と教育相談の充実 防災避難訓練、熱中症対策指導の実施と充実 清掃活動の徹底と用具の整備・管理 施設設備の点検と整備		
進路	進路支援	進路実現に必要な学力の定着と向上を図ることができる手立てを考え、実施する。	課外、補習、スタディサプリ、Classiを用いることで、基礎学力の定着を図る。各種模試の結果や入試問題の分析を行い、生徒に寄り添った指導を行う。		
	総探	大学や就職に関する情報を収集し、職員への共有や生徒への発信を積極的に行う。	入試や就職に関する情報を、教員へ回覧したり、生徒へ周知したりする。令和7年度入試の情報を収集し、早めの対策ができる環境を整える。		
総務	庶務	学校行事・式典の早期の起案 同窓会活動の活性化	学校行事・式典の起案を2か月前を原則とし、前年度までの内容との変更点がある場合、その内容を吟味し、関係各位との調整を行う。また、実施要項の内容が初めての担当が見ても分かるように文書を作成する。 新役員と学年幹事との連絡を密にしていき、秋の同窓会総会の参加者を増やしていく。		
	広報戦略	本校の特色や魅力化を図り、様々な企画・提案を行う。また本校第一志望生徒を増やすための広報活動を展開する。 全職員で、情報通信機能やメディアなどを活用し、情報を外部へ積極的に発信する。	体験入学やバーシクデザイン実技講習会、学校説明会を通し、魅力を発信する。広報活動の範囲を広げ、新規開拓を図る。 全職員が、機会を見ながらホームページの新着欄の更新を行えるようにする。 学校公式Instagramの更新頻度を増やし、本校の魅力を発信する。		
学年	第1学年	基本的生活習慣の確立	時間を守り、自ら考えて行動できる生徒を育成する。 明るい挨拶、身だしなみ、清掃に対する高い意識を持った生徒を育成する。		
		認め合い高め合う集団作り	他者に共感できる心を育成する。 コミュニケーション能力の向上を図る。		
	第2学年	学力の向上	質の高い授業やICTの活用を通して学習に対する意欲・関心を高める。 家庭学習の習慣を身につけさせる。		
自律心を育てる		自ら考え主体となって、より良い方向に変えていこうとする態度を育てる。 学校の中心となるリーダーを育て、各々がリーダーシップを発揮する場を設定する。			
第3学年	進路実現	主体的な学習活動の徹底 進路決定に必要な情報の理解や自己分析の活用			
	適切なリーダーシップの発揮	生徒会や学校行事で、計画的に集団を目標に導けるようにする。 全体の模範となる行動をとらせる。			
総合 ビジネス科	全商三種目以上1級取得率40%	1年次に資格取得に対する意識づけを授業担当者および学年団で行う。 検定合格の成果を発表して、生徒のモチベーションを維持する。			
	四年制大学の合格	・商業科推薦枠がある大学の情報を提供する。 ・国語・政経・簿記・英語の実力養成を図る。			